

「愛知県次世代バッテリーに関する研究会」を設置します

～ 次世代バッテリーの開発・生産拠点形成を目指して ～

- 次世代バッテリーのうち蓄電池市場の世界市場規模は、2050年に約100兆円と推測されている(※)。
- 本県にはEV・産業用バッテリー需要企業や電池材料を扱う企業が集積。
- 今後、イノベーションをけん引するスタートアップの更なる集積もSTATION Aiで期待される。
- そこで「愛知県次世代バッテリーに関する研究会」を新たに設置。アドバイス等を得つつ、県が主導して「研究・実証」、「人材育成」、「製造拠点等集積化(投資促進)」のプロジェクトを展開する。

※ 出典：蓄電池産業戦略(蓄電池産業戦略検討官民協議会(経済産業省))2022年8月31日

次世代バッテリーに関する研究会 (2023年11月22日設立予定)

全国の産学官主要メンバーで構成(15名)

- 座長：大村知事
- 企業：トヨタ自動車(株)始め
全国6企業
- 大学：名古屋大学2名、
東京都立大学
- 研究機関：(国研)産業技術
総合研究所関西センター、(国研)物質・
材料研究機構
- アナリスト：デロイト トーマツ
コンサルティング合同会社
- 行政：中部経済産業局
県経済産業局

今後県が取り組む分野とプロジェクト(案)

1 研究・実証

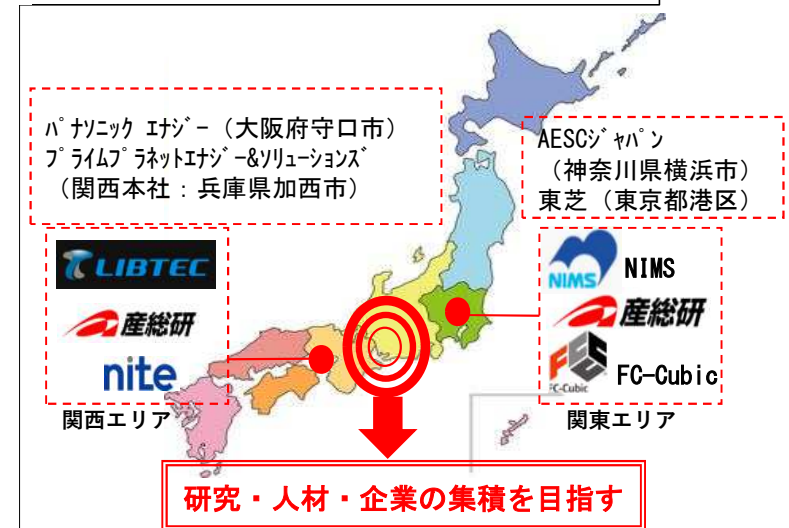
- 国内外のスタートアップ等が発案する研究・試作・実証のプロジェクトを公募(プラットフォームをウェブ上に開設)。
- プロジェクト毎に、産学官によるチーム作りのための共創の場を設置。計画作成支援。
- 「知の拠点あいち」にプロジェクトマネージャーとして専門人材(民間企業・県研究職)を配置。シンクロトロン光設備を始め評価機器の再整備。本県周辺の大学・研究機関と評価機器の相互利用ネットワーク化。
- STATION Aiの活動との連携も追求。

2 人材育成

- 企業からの寄附金を基に大学に開設する共同講座に関連して、県独自の支援を検討。
- 県内外の大学・企業・国研究機関の協力を得て、県内の高校生等を対象に蓄電池関連の授業・実習カリキュラムを策定。

3 製造拠点等集積化(投資促進)

- 国の「蓄電池の製造サプライチェーン強靱化支援事業(補助金)」に関連した県独自の支援(既存の産業立地・研究開発補助制度の拡大を検討)



LIBTEC(リブテック)：技術研究組合リチウムイオン電池材料評価研究センター(大阪府池田市)
Nite(ナイト)：独立行政法人 製品評価技術基盤機構(大阪府大阪市)
NIMS(ニムス)：国立研究開発法人 物質・材料研究機構(茨城県つくば市)
FC-Cubic(エフシー・キュービック)：技術研究組合 FC-Cubic(山梨県甲府市) ※FC=燃料電池